諸報(Report)

ランチタイムセミナー「論文の書き方講座」

醍醐 市朗¹, 本下 晶晴^{2,*}, 正畠 宏一³

Lunch Time Seminar “How to Write Research Papers”

Ichiro DAIGO¹, Masaharu MOTOSHITA^{2,*} and Koichi SHOBATAKE³

1. はじめに

第13回日本LCA学会研究発表会の開催期間中である2018年3月9日に学術誌に研究論文を投稿したことの無い人を対象とした講座として、ランチタイムセミナー「論文の書き方講座」を開催した。参加者の大半が、意図通り学術誌に研究論文を投稿したことの無い人であり、その中の多くは、研究論文を投稿してみたいという意欲を持ってらっしゃったようで、メモを取りながら講演を熱心に聞く姿が印象的であった。

2. セミナーの概要

2.1 「論文の準備・投稿・掲載」編

最初に、日本LCA学会誌の醍醐市朗編集委員長が『論文の準備・投稿・掲載』編と題して講演した。本学会誌の規則を中心に、一般的に学術誌に論文を投稿する際の手続きや留意事項を説明した。投稿時には、記事の種類があるため、どの種類の記事として投稿するかを事前に考える必要性や、論文の内容については共著者全員に承諾を得る必要があることなど、基本的な研究論文の投稿のルールを

概説した。その後、投稿のあと、編集側で査読というプロセスを経ることなどを説明したのち、著者に返される審査結果とはどういったものか、A～Dの判定とともに返される査読意見とはどのようなものか、それにどのように対応するのが一般的かなど、実践的な説明に基づいて、投稿から採択通知までのプロセスが説明された。最後に、本誌における採択後の掲載にいたるプロセスを説明して、講演を終えた。

2.2 「論文の書き方」編

続いて、同誌の本下晶晴委員より「論文の書き方」と題して、なぜ研究論文を書く必要があるのか、論文には何をどうやって書けばよいか、査読とはどのようなものであるのかについて紹介した。

当日のセミナー参加者は研究発表会であることから、学会発表と研究論文での成果の発表の違い（情報のボリューム、詳細さ、費やす時間）による情報としての信頼性の違いを説明した。次に、いざ論文を書くとなった場合に、その構成として背景、目的、方法、結果と考察、結論が論文の中でどのような役割を果たしているのか、さらにそれぞれの項目で述べるべき事項について紹介した。特に研究の位置づけや価値のアピールとして、既存研究との比較は非常に重要な役割を果たすことを強調した。こうした既存との比較に必要な文献検索の方法として有用な検索サイトも紹介した。また、査読プロセスにおける心構えとして、十分時間をかけた推敲の必要性、査読意見への対応のコツやリジェクトされた場合でも再挑戦できる可能性は十分にあることなど、査読者や編集者としての視点でのコツについて説明した。

図1 セミナーの様子

1 東京大学 / 〒113-8656 東京都文京区本郷 7-3-1

2 産業技術総合研究所 / 〒305-8569 茨城県つくば市小野川 16-1

3 TCO2 株式会社 / 〒102-0082 東京都千代田区一番町 23-2 番町ロイヤルコート 602

1 The University of Tokyo / 7-3-1 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo 113-8656

2 National Institute of Advanced Industrial Science and Technology / 16-1 Onogawa, Tsukuba, Ibaraki 305-8569

3 TCO2 Co. Ltd. / 23-2-602 Ichiban-machi, Chiyoda-ku, Tokyo 102-0082

* 連絡先 (Corresponding author), m-motoshita@aist.go.jp

図2 セミナー参加者

3. まとめ

会場からは、研究としての完成度に自信がない状態でも投稿してみるべきかどうか、論文集で募集している特集号のトピックなどとの関係などに関する質問があった。セミナーの参加者の多くは、論文執筆・投稿の未経験者が多く、大変熱心に聴講されていた。セミナーの最後に、論文の書き方に関する更に詳しい講演会などへの関心について伺ったところ、大半の聴講者のご関心を持っており、こうした論文の書き方に関する講演会への強いニーズが確認できた。今後もこうしたニーズに応えられるよう講演会などの開催を企画したいと考えている。